

湛へてゐる。

トノコマス 斗子升 慶長十年卯月の文書に、定納及び口米を量るに斗子升を用ふることを定め、従来の京升(菊判升)を廢した。又斗子升の十倍を量るものに斗升のあつたことは、『斗升並斗子升』とあるによつて知られる。斗子升は斗升に對する小升であるから、トノコマスと訓むやうに思はれるが、諸書に斗根升と書いてあるのは、斗子をトネと誤訓した爲かと思はれる。斗子升の容積の一石は寛文の新京升の一石三升に相當したから、六六立方寸三六七三九七であつたわけだ。

トノサマノヲトコ 殿様の男 藩政時代に、能登の一部で十五歳になつた百姓をいうた。この年齢から一年二升の録米を十村に出すを要し、夫役も成人並に課せられた。

トノダキ 殿瀧 河北郡正部谷に在る。高さ三〇米・幅一米であるが、その水量を増加する時は二米餘になることもある。下流は森下川に入る。

トノカクチ 殿ノ垣内 石川郡倉光の一部で、古へ若林長門の居住した所といふ。

トノマチ 殿町 金澤の町名。十間町の東方に連続してゐるが、藩政時代に殿町は武家、十間町は町家の在る所であつた。名稱の由来は詳かでない。

トノマチ 殿町 金澤の舊町名。藩政時代に専光寺の後なる井上氏の邸地は、大聖寺侯前田利精が謹慎してゐた所であるから、その町を殿町というたと傳へる。然らばこの殿町は今の田丸町である。

トノヤカタ 殿館 河北郡南森下に在つて、龜田小三郎岳信：その子隼人・大隅の相繼いで

居住した所である。

トノヤマジヨウ 殿山城 鹿島郡中島の東北丘陵に在つて、一に熊木城ともいうた。越登賀三州志故墟考に、熊木院中島村領にある殿山城と呼び、城主熊木將監が之に居たとある。

トバシ 土橋 金澤味噌藏町と材木町との間惣構堀に架けた橋で、上土橋・下土橋の兩所にあつた。龜尾記に、昔は土橋であつたからこの名があるのであらうが、今は常の板橋であると記する。明治廢藩の後惣構堀を廢した爲に、小さな橋となつた。

トバフシミノタカカヒ 鳥羽伏見の戰 慶應三年十二月前將軍徳川慶喜は、一旦京を去つて大坂に下つたが、衆議して君側の奸を除くべきであるとなし、四年(明治元)正月二日加賀藩の吏北川寛兵衛清輝を招き、藩侯前田慶寧に與ふる書を託し、翌三日會津・桑名二藩を先鋒として發したので、薩藩以下鳥羽・伏見兩道を遮り、四日に至つて之を撃退した。

この日加賀藩の歸山波河と北村太左衛門は、伏見に至つて戦況を視察したが、共に流丸に中つて死んだ。既にして慶喜の書が藩に達したから、慶寧は直に徳川氏を助けて薩長を退けんと欲し、六日夜半出兵を命令した。因つて九日に至り部署を定め、村井又兵衛長在を第一隊、前田土佐守直信を第二隊、前田彈番孝敬を第三隊として、順次征途に上らしめることに定めた。この際その非なることを説くものもあつたが、騎虎の勢に驅られたる藩吏等の耳を傾くるものなく、十日村井隊先づ金澤を發し、十二日その先鋒は越前の長崎に入つた。この時藩は徳川氏の敗退したことを略

知つて居たと思はれるが、しかも十日に至つて尙且つ進軍を敢行したものは、徳川氏の敵を薩長であると誤信したると、一は慶寧が慶喜に對し先に默契した信義を重んじたによると思はれる。然るに十二日關澤安左衛門房清が、前田内藏太孝錫の命により鳥羽・伏見の戦報を齎すに及び、徳川軍が錦旗に抵抗して朝敵の名を負うたとの事實を得たるを以て、乃ち斷乎その提携を斷ち、直に越前路に入つた先鋒を召還し、尋いで朝廷の爲に粉骨碎心して微忠を致さんとの意を上疏するに至つた。

落。

トバヤシ 外林 鹿島郡南三郷に屬する部

トビイヘツグ 土肥家次 通稱左京・四郎左衛門。末森城主土肥但馬が、前田利家の命により、淺野左近の後家を娶つて生んだもの。是を以て家次の義兄であつた青山豊後長正(佐渡吉次の養子)は、その領一萬四千七百五十石の中六百石を歿後家次に配分した。萬治元年歿。

トビガミネ 鷹ヶ峰 トビガ 河北郡白丸山とその前山なる中、平山との間に在る。高さ一二〇米許、廣さ一〇〇〇平方米許の岩石で、大池の南隅に立ち、形状鳥の啄むに似る。

トビコセツキユウテン 郡部古刹舊傳 一册。前田綱紀が山本源右衛門を京都方面へ遣はして、利家の事蹟穿鑿を命じた際、寺院に就いて調査した結果を書上げたもので、森田平次の秘笈叢書に收めてある。

トビサカ 飛坂 河北郡南中條から淺谷の部落に至る坂路。

トビシゲツグ 土肥茂次 通稱は伊豫。柳ヶ

瀬の役に戦死した土肥但馬親眞の甥。奥村永福の與力として末森城外羅郭の守將であつたが、天正十二年佐々成政に攻撃せられた時奮闘して戦歿した。

トビチカザネ 土肥親眞 通稱但馬。本姓平氏。能登末森城主で四萬石を領したが、いづれの時からそこに居たかは明らかでない。天正四年十月上杉謙信の能登に入つた時、親眞と和して途を開かしめ、七年溫井景隆等が越將齋坂長實を追うて七尾城を奪うた時亦之と好を通じた。同年長連龍の兵を率ゐて羽咋郡敷波に入つた時、親眞は又之と協力せんことを求めたが、連龍は彼の反覆常なきを知つて顧みなかつたから、親眞は自ら來り謁し、質を納れて僅かに許されることを得た。後前田利家の能登に入るに及び之に仕へ、命によつて利家夫人の姪にして淺野左近の後家であつた者を娶つた。末守殿といはれるものはである。親眞天正十一年柳ヶ瀬の役に戦歿し、四郎左衛門家次襲ぎ、その養子は青山佐渡吉次の後を受けて豊後長正となつた。

トビツカ 飛塚 河北郡田島にある。一に長者塚ともいふ。加賀志微に、長者塚の別號あるに因つて考へれば、飛塚は富塚の訛であらうとする。

トビトモチカ 土肥知周 通稱庄兵衛。元祿八年父武藤助丞の遺知二百四十石を繼ぎ、組外に班し、次いで表小將・御使番より漸く昇進して定番頭に至り、享保四年百石、九年二百石を加へ、十二年氏を土肥と改め、寛延元年八月七十歳を以て歿した。

トビヤマ 鳶山 トビ 河北郡狩鹿野の部落から東北に在る山。高さ三三三米。地質第三